

緑 が 丘



「ぼく・わたしが主役」～「自分できめる」「みんなと究める」～

令和8年10月1日発行

三木市立緑が丘小学校

みんなの「元気玉」をみんなの力に

さば雲、いわし雲、うろこ雲…そしてどこまでも続くように見える、高く澄み切った青空が季節の変化を伝えてくれます。

さて、2024年3月に逝去された鳥山明さんの漫画「ドラゴンボール」が好きで、繰り返し読んできました。そこに登場する「元気玉」は、周囲の生命体から「元気」を少しずつ分けてもらうことで完成します。

「だ…大地よ…海よ…空よ…そしてこの世に生きている全てのみんな…！！オラにほんのちょっとずつだけ…！元気を分けてくれ！！オラのためだけじゃねえ！みんなのためにっ！頼むっ！みんなのためにっ！！！」(42巻「悟空」の言葉)

主人公の「悟空」が勝手に「元気」を集める場合は、対象が気づかない程度の微量なエネルギーしか得られません。逆に、対象者が「元気を送るぞ！」と強く意識して両手を挙げた場合、爆発的なエネルギーが集まります。

現在、5年生で実施中の自然学校中でも、冒険プログラム、飯盒炊爨、そして日々の生活をともに過ごす中で、みんなの元気もみんなの力に変えていく姿がいくつもあります。さり気ない言葉やふるまいに、みんなが元気になります。嬉しくなります。

10月8日(木)に、親子人権学習を予定しています。人権とは、自分も人も大切にすること⇒自分らしく安心して安全に過ごせることです。安全安心は、自分の居場所があることであり、周囲との関係性の中で創られます。そこで行き来する「元気玉」は、互いの言葉や行動です。4月に子どもたちとつくった「ぽかぽか言葉」や「魔法の言葉」「しあわせのバケツ」等互いを元気にする言葉が各教室に掲示されています。「元気玉」の例です。当日は、親子で、この「元気玉パワー」をアップし、学習を深める場になることでしょう。ドラゴンボールの「元気玉」は、みんなの力を一つにします。みどりっ子の「元気玉」は、みんなの力になります。

掲載詩は谷川俊太郎さんの「ともだち」です。少し長いので、抜粋しました。絵本もあり、機会があれば全文に触れてほしいと思います。自分にピッタリくるフレーズは、あるでしょうか？なければ自分の「ともだち」へのワンフレーズを考えてみてください。まずは自分の近くの人への「元気玉」を！（校長 佐野 順子）

ともだち

谷川 俊太郎

ともだちって おかあさんや
おとうさんにも いえないことを
そうだんできるひと
ともだちって そばにいないときも
いま どうしてるかなって
おもいだすひと
ともだちなら かりたものは
きちんと かえそう
ともだちなら いやがることを
するのは よそう
しかられた ともだちは
どんなきもちかな
なかまはずれに されたら
どんなきもちかな
しつぱいを わらわれたら
どんなきもちかな
ないしょばなしを されたら
どんなきもちかな
じぶんの いいたいことは
はっきり いおう
なかなかおりするには けんかをす
るのと おなじぐらいの
ゆうきがいる
だけど わるかったと おもったら
「ごめんね」とあやまろう

ともだちも おなじ きもちかな
(抜粋)



自然学校「握った手と手」